

AOI 名古屋病院

2025PLAN

平成 31 (2019) 年 1 月 策定

令和 3 (2021) 年 3 月 改定



医療法人社団葵会

【AOI 名古屋病院 基本情報】

医療機関名： 医療法人社団葵会 AOI 名古屋病院

開設主体： 医療法人社団葵会

所在地： 〒461-8798 名古屋市東区泉二丁目2番5号

許可病床数： 96床

（病床の種別） 一般病床 96床

（病床機能別） 急性期病床 48床（急性期病棟）

一般病床 48床（障害者病棟）

稼働病床数： 96床

（病床の種別） 一般病床 96床

（病床機能別） 急性期病床 48床（急性期病棟）

一般病床 48床（障害者病棟）

診療科目： 内科・呼吸器内科・老人内科・外科・整形外科・婦人科・小児科・眼科

職員数： 184名（2021（令和3）年4月1日現在）

職種	数
医師	10名
看護職員	83名
専門職	49名
事務職員	42名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

(人口の見通し)

- 名古屋医療圏は、県内人口の3割以上が集中しており、全国的にも大阪市医療圏、札幌医療圏に次いで3番目に人口が多い2次医療圏となっています。
- 総人口は県全体と同様の推移で減少します。65歳以上は増加していき、県全体より増加率は高くなっています。

<人口の推移>

※ () は平成25年を1とした場合の各年の指数

区分	総人口			65歳以上人口			75歳以上人口		
	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年
県	7,434,996 (1.00)	7,348,135 (0.99)	6,855,632 (0.92)	1,647,063 (1.00)	1,943,329 (1.18)	2,219,223 (1.35)	741,801 (1.00)	1,165,990 (1.57)	1,203,230 (1.62)
名古屋・ 尾張中部	2,435,443 (1.00)	2,413,691 (0.99)	2,248,387 (0.92)	549,243 (1.00)	657,475 (1.20)	759,014 (1.38)	257,170 (1.00)	401,600 (1.56)	420,030 (1.63)

(医療資源等の状況)

- 病院数が多く、また、大学病院が2病院あり、救命救急センターも6か所整備されています。人口10万対の病院の一般病床数や医療従事者数は県平均を大きく上回っており、医療資源が豊富です。
- DPC調査の結果（DPC調査参加施設：24病院）によると、圏域内において、ほぼ全ての主要診断群の入院及び救急搬送実績があり、緊急性の高い傷病（急性心筋梗塞・脳卒中・重篤な外的障害）及び高齢者の発生頻度が高い疾患（成人肺炎・大腿骨骨折）の入院実績があり、病院数及び実績数が他圏域と比べ著しく多いことから、圏域内の急性期入院機能が充実していると考えます。
- 消防庁データに基づく救急搬送所要時間については県平均とほぼ同様であり、DPC調査データに基づく緊急性の高い傷病（急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞・くも膜下出血・破裂脳動脈瘤・頭蓋・頭蓋内損傷）の入院治療を行っている施設までの移動時間は、30分以内で大半がカバーされていることから、医療機関への交通アクセスや医療機関の受け入れ体制等に大きな問題がないと考えられます。
- 高度な集中治療が行われている特定入院料の病床については、平成28年現在、圏域内（18病院）において、救命救急入院料・特定集中治療室管理料（ICU）・新生児特定集中治療室管理料（NICU）・総合周産期特定治療室管理料（MFICU）ハイケアユニット入院医療管理料（HCU）・新生児治療回復室入院医療管理料（GCU）の届出がされています。
- 平成25年度NDBデータに基づく特定入院料の名古屋医療圏の自域依存率は高い状況にありますが、脳卒中ケアユニット入院医療管理料（SCU）については、尾張東部医療圏及び尾張北部医療圏へ患者が流出しています。

<医療資源等の状況>

区分	愛知県①	名古屋・尾張中部②	②/①
病院数	14,712	6,538	—
人口 10 万対	4.4	5.6	127.8%
診療所数	5,259	2,166	—
有床診療所	408	130	—
人口 10 万対	5.5	5.3	97.1%
歯科診療所数	3,707	1,517	—
人口 10 万対	49.9	62.3	124.8%
病院病床数	67,579	25,978	—
人口 10 万対	908.9	1,066.7	117.4%
一般病床数	40,437	16,748	—
人口 10 万対	543.9	687.7	126.4%
療養病床数	13,806	4,493	—
人口 10 万対	185.7	184.5	99.3%
精神病床数	13,010	4,604	—
人口 10 万対	175.0	189.0	108.0%
有床診療所病床数	4,801	1,573	—
人口 10 万対	64.6	64.6	100.0%

区分	愛知県①	名古屋・尾張中部②	②/①
医療施設従事医師数	14,712	6,538	—
人口 10 万対	197.9	268.5	135.7%
病床 100 万対	20.3	23.7	116.9%
医療施設従事歯科医師数	5,410	2,270	—
人口 10 万対	72.8	93.2	128.0%
薬局・医療施設従事薬剤師数	10,525	4,065	—
人口 10 万対	141.6	166.9	117.9%
病院従事看護師数	36,145	14,310	—
人口 10 万対	486.1	587.6	120.9%
病床 100 万対	49.9	51.9	104.1%
特定機能病院	4	2	—
救命救急センター数	22	6	—
面積 (km ²)	5,169.83	368.34	—

(入院患者受動状況)

【名古屋医療圏】

○ 入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期は 9 割程度と非常に高い水準にあります。また、他の 2 次医療圏や県外からの患者流入も多くみられます。

<平成 25 年度の名古屋医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向>

(単位：上段 人/日、下段： %)

患者住所地		医療機関所在地													合計
		名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外	
名古屋医療圏	高度急性期	1,321	*	*	154	*	16	16	*	*	*	*	*	*	1,507
		87.7%	—	—	—	—	1.1%	1.1%	—	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	3,735	*	16	414	10	48	16	*	*	*	*	*	*	4,239
		88.1%	—	0.4%	9.8%	0.2%	1.1%	0.4%	—	—	—	—	—	—	100.0%
	回復期	3,819	79	26	270	13	56	20	*	*	21	*	*	21	4,325
		88.3%	1.8%	0.6%	6.2%	0.3%	1.3%	0.5%	—	—	0.5%	—	—	0.5%	100.0%
	慢性期	2,191	36	119	117	12	84	46	29	*	22	*	16	71	2,743
		79.9%	1.3%	4.3%	4.3%	0.4%	3.1%	1.7%	1.1%	—	0.8%	—	0.6%	2.6%	100.0%

<平成 25 年度の他医療圏から名古屋医療圏への流入入院患者の受療動向>

(単位：上段 人/日、下段： %)

医療機関所在地		患者住所地													合計
		名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外	
名古屋医療圏	高度急性期	1,321	88	50	61	33	63	99	20	12	20	*	11	48	1,826
		72.3%	4.8%	2.7%	3.3%	1.8%	3.5%	5.4%	1.1%	0.7%	1.1%	-	0.6%	2.6%	100.0%
	急性期	3,735	188	123	136	65	124	213	34	26	39	*	24	141	4,848
		77.0%	3.9%	2.5%	2.8%	1.3%	2.6%	4.4%	0.7%	0.5%	0.8%	-	0.5%	2.9%	100.0%
	回復期	3,819	170	112	174	54	117	163	30	16	32	*	19	124	4,830
		79.1%	3.5%	2.3%	3.6%	1.1%	2.4%	3.4%	0.6%	0.3%	0.7%	-	0.4%	2.6%	100.0%
	慢性期	2,191	80	33	130	23	47	47	17	*	23	*	*	16	2,607
		84.0%	3.1%	1.3%	5.0%	0.9%	1.8%	1.8%	0.7%	-	0.9%	-	-	0.6%	100.0%

- ・厚生労働省から提供された「必要病床等推計ツール」のデータを基に作成。
- ・レセプト情報等活用の際の制約から、集計結果が 10 (人/日) 未満となる数値は公表しないこととされており、「*」と表示している。

【尾張中部医療圏】

- 入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期が非常に低くなっており、名古屋医療圏へ多くの患者が流出しています。また、慢性期については、名古屋医療圏から多くの患者が流入しています。

<平成 25 年度の尾張中部医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向>

(単位：上段 人/日、下段： %)

患者住所		医療機関所在地													合計
		名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外	
尾張中部医療圏	高度急性期	50	*	*	*	*	19	*	*	*	*	0	*	*	69
		72.5%	-	-	-	-	27.5%	-	-	-	-	-	-	-	100.0%
	急性期	123	*	82	*	16	46	*	*	*	*	0	*	*	267
		46.1%	-	30.7%	-	6.0%	17.2%	-	-	-	-	-	-	-	100.0%
	回復期	112	*	111	*	19	46	*	*	*	*	0	*	*	288
		38.9%	-	38.5%	-	6.6%	16.0%	-	-	-	-	-	-	-	100.0%
	慢性期	33	*	104	*	*	25	*	0	0	*	0	*	*	162
		20.4%	-	64.2%	-	-	15.4%	-	-	-	-	-	-	-	100.0%

<平成 25 年度の他医療圏から尾張中部医療圏への流入入院患者の受療動向>

(単位：上段 人/日、下段： %)

医療機関所在地		患者住所地													
		名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外	合計
尾張中部医療圏	高度急性期	*	*	*	*	*	*	*	*	0	*	*	*	*	*
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0%
	急性期	16	*	82	*	*	*	*	*	0	*	*	*	*	98
		16.3%	-	83.7%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0%
	回復期	26	12	111	*	26	*	*	*	0	*	0	*	*	175
		14.9%	6.9%	63.4%	-	14.9%	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0%
	慢性期	119	21	104	*	30	15	*	0	0	0	0	*	*	289
		41.2%	7.3%	36.0%	-	10.4%	5.2%	-	-	-	-	-	-	-	100.0%

② 構想区域の課題

- 大学病院が 2 病院あり、救命救急センターも 6 か所整備されている等、高度な医療を広域に支える役割があり、今後も高度・専門医療を確保し、緊急性の高い救急医療について、他医療構想区域との適切な連携体制を構築していく必要があります。
- 人口が多く面積も広いいため、構想区域内の医療提供体制の地域バランスに留意する必要があります。
- 回復期機能の病床を確保する必要があります。
- 名古屋医療圏から他医療圏への流出を抑制するための療養病床の整備を検討する必要があります。

③ 自施設の現状

- 当院は、東区唯一の旧総合病院であり、近隣には大学病院、医療センター等の高度急性期医療を提供する病院が多数あります。
また、診療所、クリニックや施設等も多数存在し、地域の中でも、高度急性期から在宅へ至る中継地点として、ハブ機能としての役割や指名を担っています。
- 地域のかかりつけ医からは、「困った時の通信病院」という位置づけとなっていたことを AOI 名古屋病院としても受け継ぎ、急性期に直接紹介すべきか否か、判断のつかない患者を受入れ、適切に振り分けています。
また、高度急性期からは、直接在宅への移行が困難なケースを受け入れるなど、「困った時の AOI 名古屋病院」として急性期後の患者を受け入れ、回復期の医療を提供しています。
さらに、在宅へ向けての調整や、療養または施設への円滑な移行のために、当院の機能を十分に生かしつつ、地域の中での役割や使命を果たしていけるよう運営しています。
- 当院は、立地条件がよい場所に 96 床の病床を有しておりますが、建物において余剰となっている部分があります。

④ 自施設の課題

- 計画当初において、医師・看護師・コメディカルの人材不足が顕在化し、入院患者の受入調整を余儀なくされることがあり、入院患者が減少してきているため、平成 29 年度の病床稼働率（累計）70%に比べ、平成 30 年度の病床稼働率（12 月末）は 65.1%まで低下していましたが、2020 年度の病床稼働率は 96%まで改善しています。当初の計画と真逆の問題が発生しております。
今コロナウイルス感染症の爆発的拡大があったことも要因となっておりますが、慢性期疾患を有する患者様を受け入れる病床の確保が急務であると考えています。
- 産婦人科については、担当医師の減少により、平成 31 年度 3 月から分娩の取り扱いを休止しておりますが、産婦人科医の不足は当院に限らず全国的な問題であることから、医師の補充が困難なため、再開の目途は立っておりません。

【2. 今後の方針】

① 地域において今後担うべき役割

- 令和 3 年 11 月に昭和区にある医療法人順正会（てしがわら病院 療養病床 71 床）を医療法人社団葵会が吸収合併することとなっております。てしがわら病院は、建物老朽化が顕著であることに加え、病院建物構造設備が旧基準としての運営となっていることから、患者療養環境改善を目的とした改修工事ならびに移転新築が可能か否かの検討を行ってまいりました。前述したとおり、AOI 名古屋病院の建物は余剰部分がありますが、てしがわら病院の病床を受け入れることが可能な建物延床面積を有していることを確認しています。慢性期を有する患者様の名古屋医療圏から他医療圏への流出を抑制する上で最も有益と考え、令和 3 年度内に病床の統合を計画したいと考えます。病床機能の変更はせず、現状を維持した統合と致します。
- 医師・看護師の確保も順調に改善されてきましたが、2 次応需救急病院としての機能の充実と急性期後の回復期患者を受け入れする改善も行うなど、医療圏での適切な機能分化が成せる体制の構築が必要と認識しています。

② 今後持つべき病床機能と附帯事業の整備

- 自医療圏の患者受動動向にて、一般病床を地域包括ケア病棟にて運営する検討を行いたいと考えます。
- 地域全体の平均在院日数を減少させるため、在宅医療に繋ぐ施策（訪問看護ステーション）の開設も視野に入れる検討を行いたいと考えます。

③ その他見直すべき点

- 重篤な赤字運営の改善が進められておりますが、引き続き人員・診療資源の見直しを行い、経営の最適化に取り組んでいく必要があります。

【3. 具体的な計画】

① 4 機能ごとの病床の在り方について

<今後の方針>

	現在 (令和2年度病床機能報告)		将来 (2022年度)		将来 (2025年度)
高度急性期	0	⇒	0	⇒	0
急性期	96		96		48
回復期	0		0		48
慢性期	0		71		71
(合計)	96		167		167

<具体的な方針及び整備計画>

- 自医療圏の患者流失を抑制するためてしがわら病院の病床を統合し総病床数 167 床にて運営することと致します。
- 今コロナウイルス感染症の動向を見ながらではありますが、在宅復帰を促進させるための地域包括ケア病棟の整備を行います。

	取組内容	到達目標
2018 (平成 30) 年度	○病床機能の検討 (平成 31 年 3 月 31 日事業廃止)	○当院においての方針を決定
2019 (平成 31) 年度 ～ 2020 (令和元) 年度	(平成 31 年 4 月 1 日事業譲渡) ○具体的な病床整備計画の策定 ○てしがわら病院の統合計画の実施	
2021 (令和 2) 年度 ～ 2022 (令和 3) 年度	(令和 4 年 2 月 1 日) ○てしがわら病院の統合実施 ○地域包括ケア病棟開設 準備開始	
2024 (令和 5) 年度	(令和 6 年 2 月 1 日) ○地域包括ケア病棟開設	

② 診療科の見直しと附帯事業について

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025(令和6)年度)
維持	内科、呼吸器内科、老年内科、外科 産婦人科、小児科、眼科、皮膚科、 整形外科、泌尿器科		内科、呼吸器内科、老年内科、外科 婦人科、小児科、眼科、整形外科
新設			訪問看護ステーション
廃止			
変更・統合			

<具体的な方針及び整備計画>

- 地域患者の動向と疾患統計の詳細な分析をみながら、必要とされる診療科新設の検討は患者動向を見ながら検討してまいります。
- 地域包括ケア病棟の運営において、在宅復帰患者のアフターフォローの整備が必要になると考えます。地域の動向を見ながら、訪問看護ステーションの開設を検討いたします。

【4. その他】

- 特にありません